

第3回

[日 時] 令2年9月12日 (土) 18:30~20:30

[場 所] 東松島市矢本東市民センター

[テーマ] 世界に誇れる石巻地域にしよう~発信! 未来へ~

[使用したテキスト] 『耕人』 第9-3号.pdf (塾長から塾生へのメッセージ)

[当日の流れ] ①塾長挨拶 ②講話 ③今後の活動計画検討 ④講評

[活動内容詳細]

●塾長挨拶 (木村塾長)

はじめに木村塾長より、耕人塾で大切にしている実践の柱、「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」について話がありました。

二十四節気の話から、私たちは自然や人に生かされている、だから一生懸命生き、自他の人生を大切にしてほしいという塾長の願いが語られました。そこから生まれた3つの実践。心掛けたいポイントを以下のように具体的に示しました。

- ①「あいさつ」...どのようにあいさつをしたら相手の心に響くのかを考えて実践する。
- ②「清掃」...感謝の気持ちを込めて清掃する。
- ③「ゴミ拾い」...ゴミ拾いとは奉仕の心を形にしたもの。喜んでさりげなく行う。

●講話

講師：合同会社 巻組 代表社員 渡邊 享子さん

埼玉出身の渡邊さんが、東日本大震災後のボランティアをきっかけに石巻に関わり、移住して起業するまでの道のりと、現在も関わる街づくりを通して、人が幸せになるためのしくみや心持ちについて、話をいただきました。

進路に迷っていた学生時代、縁もゆかりもなかった石巻に、震災ボランティアとして飛び込んだ渡邊さん。明日生きていくためにどうしたらよいかもがく被災者の姿を目の当たりにして、自分自身が役に立つことがあるのではないかと考え、石巻に高速バスで通い続けます。復興支援の志を持った多くのボランティアとの出会いから、彼らが滞在する空き家を活用したシェアハウスづくりが、起業のきっかけでした。その事業を通して、石巻と人を結びつけ、人や街にとっての幸せは何かを考えながら復興を後押ししてきた姿は、塾生に多くの示唆を与えてくれました。「答えが出なくても問い続ける。とりあえずやってみて、失敗を繰り返しながら人は成長する。」とという渡邊さんの言葉は、先行き不安な未来に向かう塾生に、勇気と希望の灯をともしてくれました。



●交流活動「今後の活動計画の検討」

前回に引き続き、世界に誇れる石巻地域（ふるさと）にしよう！～発信！未来へ～」の具現化に向けた課題を設定し、教学委員と塾生が小グループに分かれて話し合いました。今回は、前回立てたそれぞれの課題を基に、内容の近い塾生ごとにグループ編成を行いました。



●講評（平塚教学委員）

最後に平塚教学委員(アドバイザー)より、講評として、悩んだり迷ったりした時は、まずは「具体的に動く」ことが大切であるという話がありました。本日の講師、渡邊さんの言葉を引用しながら、答えが見つからなくても動きながら考えることの大切さを説き、実践活動に臨む塾生を励ました。

メニュー

ホーム	▼
耕人塾の活動	▼
令和2年度の活動	▼
第6回 閉塾式	
第5回	
実践活動（ゴミ拾い）	
第4回	
「笑顔はぐくむ復興の森植樹会」への参加	
第3回	
第2回	
第1回 開塾式	
令和元年度の活動	>
平成30年度の活動	>
平成29年度の活動	>
平成28年度の活動	>
平成27年度の活動	>
平成26年度の活動	>
平成25年度の活動	>
平成24年度の活動	>
報道・受賞	